

今大学図書館に求められているもの

逸村裕(いつむら ひろし)
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科
情報学群知識情報図書館・学類
附属図書館研究開発室

公立大学協会図書館協議会研修会 基調講演

The best is the enemy of the good

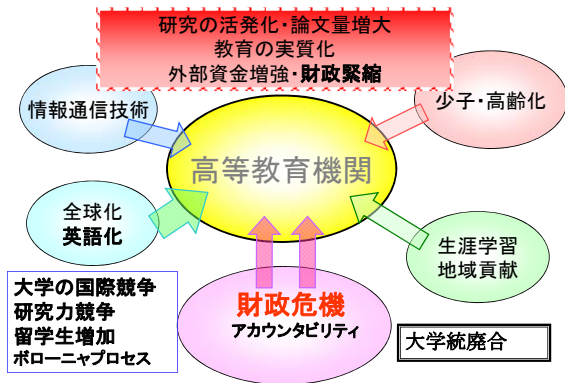
Voltaire

『図書館業務の基本原則』Urquhart, D. J.

最初に質問

1. あなたの大学の自慢できることは何ですか？
2. あなたの図書館の自慢できることは何ですか？
3. あなたの大学の収入構成は？
4. あなたの大学の支出構成は？
5. あなたの図書館の支出構成は？

高等教育機関を取り巻く環境の変化



実態を把握する

大学図書館の歴史的展開

1960代	大学図書館近代化
1970-1980前半	機械化 試行錯誤からNACSISへ
私学助成強化	オンライン情報検索 JOIS, DIALOG, 日経テレコン
新図書館建設ブーム	図書館利用者教育
1985-	NACSISを中心とした図書館パッケージシステム普及
	図書館ネットワーク構築(NACSIS-ILL) CD-ROM
1993-	インターネット、電子図書館
1999-	電子ジャーナル
	機関リポジトリ、オープンアクセス
	ラーニングコモンズ...

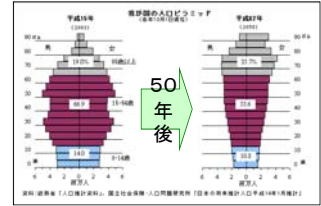
雑誌危機シミュレーション(雑誌価格暴落)

学術情報基盤としての大学図書館

世界の学術資料を集めることは重要と考えられていた
個人(研究室)から徐々に大学図書館へ
一図書館ですべての学術資料収集は不可能
1950~相互協力体制(Inter Lending Library)整備
総合目録作成
1973拠点図書館(外国雑誌センター)構想
1980学術情報センター(NACSIS)構想
1990頃NACSIS-CAT, ILLによる文献供給体制確立

高等教育を取り巻く社会の状況

少子化
高齢化
職業人の再学習, 生涯学習
知の再構築
国際競争力の強化



大学設置数増加
1大学平均志願者数の減少
定員割れ



認証評価

2008年春18歳進学

高校卒業生の60.1%が進学志望
四年制大学・短大志願者744,000
入学者684,000

4年制私大の47%が定員割れ

大学をめぐる状況

18歳人口は漸減
205万(1992)→124万(2008)→119万(2018)
志願状況の二極化
大都市圏/地方
大学規模大/小
止まらない不祥事

大学図書館員の専任率

	全体	国立	公立	私立
1998	61.8%	59.0	68.5	62.4
2002	56.2%	55.6	60.4	56.1
2006	49.5%	50.2	51.1	49.0

高等教育政策

1998「21世紀の大学像と今後の改革方針について」(大学審議会)

- 学習環境の整備

教室外における学習を徹底させ、学生が主体的な学習に十分取り組むことができるようにするためには、指導を担当する個々の教員の努力に加え、図書館の座席数や必読図書の数、必要冊数の確保、開館時間や開館日、貸出期間など施設・設備利用の面を含め、学生が学習する場としての大学の学習環境の整備にもこれまで以上に留意する必要がある。

我が国の高等教育の将来像(答申)

2005年1月28日 中央教育審議会

21世紀は「知識基盤社会」(knowledge-based society) 大学が学部学科や研究科といった組織本位の発想を改め、学位を与えるのにふさわしい体系的な教育課程をつくるよう促す。

2020年頃までを想定した中長期的な方向性を示した。大学は「教育の質を重視」すべき。

重点政策

- ①教育課程改善、
- ②教養教育、大学院教育の充実、
- ③大学同士の競争が激化する中で各校が経営改善に努める、
- ④世界トップクラスの大学院を形成、
- ⑤「卒業が簡単な大学」から脱却、「出口管理」強化

大学の7つの機能

- ① 世界的研究・教育拠点
- ② 高度専門職業人養成
- ③ 幅広い職業人養成
- ④ 総合的教養教育
- ⑤ 特定の専門分野(芸術や体育等)の教育研究
- ⑥ 地域の生涯学習機会の拠点
- ⑦ 社会貢献(地域貢献・産学官連携等)

各大学は、上記7つの機能を併有するが、各大学ごとに保有する機能や比重の置き方は異なる。その比重の置き方が大学の個性となり、各大学は緩やかに機能別に分化していくことを求めている。競争的資金の配分などを通じ、国公私それぞれ特色化や役割分担を各大学は、自ら戦略的に選択していくことが求められる

科学技術政策

第3期科学技術基本計画(2006年3月28日閣議決定)

研究情報の利用環境の高度化を図るため、最新の情報通信技術の導入を進めつつ、論文等の書誌情報と特許情報の統合検索システムの整備、論文誌等の収集・保存体制の強化、大学図書館・国立国会図書館等の機能強化や連携促進を進める。さらに、我が国の研究情報の蓄積を資産として国の内外に発信できるよう、論文誌等の電子アーカイブ化支援を進める。なお、研究者が公的な資金助成の下に研究して得た成果を公開する目的で論文誌等で出版した論文については、一定期間を経た後は、インターネット等により無償で閲覧できるようになることが期待される。

米国大学図書館の風景2000

図書館はがらがらで静か
(コンピュータラボは満員)

入館者数	20%減少
一般図書貸出数	20%減少
リザーブ図書	60%減少
電子ジャーナル論文検索	350%増大
オンライン検索	800%増大

米国大学図書館の風景2007

あちこちに置かれたコンピュータ
居心地のいい座席と机そして喫茶室
24時間体制のテクニカルスタッフ
本は？
情報の収納庫から知的活動の場所へ

Learning Commons
Library Commons
Information Commons

Scholars Portal

学術情報基盤の今後の在り方について(報告)

科学技術・学術審議会 学術分科会
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会
平成18年3月23日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015/020.pdf

主査:石井紫郎
三WG コンピュータネットワーク
大学図書館
学術情報発信

学術情報基盤の今後の在り方について(報告)
図書館員について

主題知識、専門知識、国際感覚を持った専任の図書館職員が不十分
高度の図書館サービスを提供するためには、図書館職員としての専門
知識と経験のほか、特定の専門分野についての高度の知識を持つ
サブジェクトライブラリアンが、レファレンスサービス、情報資源の組
織化や選書等において、専門性を発揮する必要がある。また、図書
館職員には伝統的な図書館業務に関わる理念と知識、技能に加え、
情報通信技術の活用と人的サービスを行うコミュニケーション能力を
持った、いわゆるデジタルライブラリアンともいべき人材も求められ
るが、現在の大学図書館には、そのような人材は少なく、その有効
活用や人材育成への取組みも十分に行われていない状況である。
さらに、学術情報流通の国際化、教育研究の国際化に対応できる広
い視野を持った人材が求められている。

学術情報基盤の今後の在り方について(報告)その後

新メンバーによる
科学技術・学術審議会 学術分科会
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会
審議が始まっている。

2007年4月27日より新規

大学図書館を巡る環境の変化

事業経営戦略: ミッションとビジョン

認証評価の時代

ミッション

ビジョン

図書館は永続性を意識する

そのために

情報利用者の変化

この10年で情報利用の形態は大きく変わった
世界同時進行

技術とビジネスモデルの複雑な相互作用

Google、Amazon

FaceBook

社会的なもろもろ

Community knowledge

Social bookmark/tagging etc

(1)学生

選抜制度の制度疲労

少子化

多様な入試

予備校の影響力

センター入試 得点率40%以下で大学合格

留学生30万人計画

高等学校卒業程度認定試験(旧大検)

学生の多様化

世界的に学生は今

ネット指向

Google

Wikipedia

SNS

Blogの隆盛

インターネット上で公開されている国内のブログが08年1月
末現在で約1690万件あり、記事総数は約13億5千万件と
単行本約2700万冊分のデータ量に相当する

高等学校卒業程度認定試験問題

…イラクのクウェート侵攻に対して、1991年アメリカ合衆国を中心とする多国籍軍がイラクを攻撃して始まった戦争を何というか。

- 1 清仏戦争
- 2 イタリア統一戦争
- 3
- 4 アロー戦争

少子化

1974生まれ	205万人
1979年生れ	160万人
1984年生れ	148万人
1989年生れ	129万人
1990年生れ	125万人
1995年生れ	121万人
2000年生れ	118万人
2005年生れ	105万人

少子化を学力の視点で単純化すると

1992年	205万人	2008年	125万人
	67		70

(2)教育に携わる人たち

いわゆる「学力低下」問題
授業計画
授業評価

eラーニング
Open CourseWare

(3)研究者

出版かさもなくば減びるか
現代のPublish or perish
世界の学術出版量の増大
Publish, review or perish
忙しい人はどんどん忙しくなる
研究自体の変貌？
論文という媒体の将来

(4)新しモノ好き利用者とそうでない利用者

従来のやり方に固執する利用者
情報通信技術を駆使する利用者

- a. サーチエンジン
- b. 図書館WWW
- c. アラートサービス
- d. ナビゲーションツール
- e. その他もろもろ
- e. その人独特の技

(5)教育と図書館

図書館は教育にどう関与できるのか

- 場
- 資料
- 人的サービス
- 情報活用

情報リテラシー教育

大学教育との連携を図るか

- KITIE(慶應義塾大学)
- パスファインダー(愛知淑徳大学)
(名古屋大学)
- 東北大学の試み

機関リポジトリとの連携は？

認証評価とのかかわりは？

図書館員の役割と機能

(1)図書館業務の諸原則(アーカート)

- a. Supply creates demand.
- b. Libraries have to be paid for.
- c. No library is island.
- d. The staff of a library should work as a team.
- e. Libraries can be valuable to society
- f. The best is the enemy of the good.

図書館員の役割と機能

(2) 図書館職員に求められる資質(小西)

- a. ねばり強いこと
- b. サービスへの思い入れ
- c. 図書館像を持つ
- d. 歴史に学ぶ
- e. プロ意識を持つ
- f. 先ず図書館の利用者になる
- g. 規則に振り回されない
- h. 成功体験にとらわれない=変革への志
- i. 文章力とプレゼン能力を鍛える
- j. 得意なことを持つ・「なりたい気持ち」を忘れない

新たな役割

今、大学図書館に何が求められているのか？

(3)R&Dとの関係

- 教員との連携
- 附属図書館研究開発室
- REFORM

NACSIS-ILL処理件数の変化

複写および現物貸借依頼件数の推移

年度	複写	貸借	合計
1994年度	468,321	19,373	487,694
1995年度	535,229	26,414	561,643
1996年度	637,860	35,113	672,973
1997年度	768,598	46,319	814,917
1998年度	881,786	59,826	941,612
1999年度	960,456	72,988	1,033,444
2000年度	1,000,412	81,554	1,081,966
2001年度	1,045,082	82,521	1,127,603
2002年度	1,045,366	87,324	1,132,690
2003年度	1,061,378	91,387	1,152,765
2004年度	1,092,116	96,078	1,188,194
2005年度	1,099,744	100,668	1,200,412
2006年度	1,056,656	101,047	1,157,703

Knowledge Librarian

高等教育機関におけるKnowledge Librarian

常に新しい舞台へ

一人二役(三役)

仕事負荷 重くても平気

現場の苦勞を理解し、問題を共有する

業績評価

リーダーシップとフォロワーシップ

対人サービス コミュニケーション

Academic Administrator

高等教育機関におけるAcademic Administrator

General Administratorとの異同

ミッションの解釈

新しい舞台へ

一人二役(三役)

仕事負荷 重くても平気

現場の苦勞を理解し、問題を共有する

業績評価

トップダウンとボトムアップ

リーダーシップとフォロワーシップ

ガバナンス(governance)

[統治]

関連する諸法規・基準の理解
と中長期的な経営機能と構造

ステークホルダ-(stakeholder)を描く

Academic Administrator とKnowledge Librarianの世界

課長・課長補佐・係長職の存在意義

ガバナンス

コミュニケーション

ネットワークと業務情報

責任の明確化

学術情報流通の一角を担う、とは

ひとつの解決手段

シナリオライティング Scenario writing

シナリオライティングとは様々な要因について将来予測を組み合わせることで、将来顕在化する可能性のある像を複数イメージするものである。

1. 多様な選択肢。様々な階層別に多様な選択肢が準備される。
2. 施設の整備とICTにより、いつでもどこでも誰にでも状況。
3. 「境」が希薄化し、融合と分断が進み、新しい〇〇が出現、進化。
4. 〇〇の特性を生かしたブランド化により、〇〇が活性化する。
5. さまざまな分野、維持管理技術、高付加価値化・・・

シナリオを描いてみる:教育との関係

Computer Based Training

Online Courses

Learning Content Management System

Learning Mall **Library(Information) Commons**

Learning on Demand

Semantic Agents

Cybraries